

# 平成28年度 第2回九州森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

## 1 日時及び場所

平成28年9月15日(木) 10時00分～12時00分  
九州森林労連会館3階 会議室

## 2 議題

- (1) 木材の需給動向等について
- (2) 国有林材の供給調整の必要性等について
- (3) その他

## 3 議事概要

### 【委員会の検討結果】

現時点での供給調整は要しない。

### 【主な意見】

- 原木は梅雨時期を通して安定的に供給出来ている。山側に価格情報が行き渡っており、出材も多い。原木輸送用のトラックが不足しており、今後、ストックヤードの利用等効率的な輸送方法を考えていく必要がある。
- 原木の価格は虫害や輸出低迷から下がっているが、出材されたものは全て消費されており、国有林材の供給調整は必要ない。伐採、搬出作業は高性能林業機械の導入により若い人が増えてきているが、造林や下刈りの人材が不足しており、人材確保がこれからの課題。
- 供給調整は必要ないが、これまで木材価格の下支えとなってきた燃料用チップの動向が懸念される。発電所から入荷制限がかかっており、場合によっては原木価格に影響が出る可能性もある。なお、システム販売材が計画通りに供給されていない状況にある。計画に沿ってその後の販売先や数量を決定していることから、今後は、協定数量の精度向上や情報の共有を徹底して欲しい。
- 製品については梅雨明けから動きが出てきている。住宅着工は順調だが大工不足が深刻な状況で、今後影響が出てくるのではないかと。原木価格、製品価格ともに安定しており、供給調整の必要はない。
- 原木市場への出荷が増えていないが、これは山元からの直納のほか、市場から大型製材工場への直納も増えているからで、市場の体質変化がうかがえる。製品は梅雨明けから売り上げが回復しており、供給調整については、市場への供給が少ない状況ではあるが問題はない。
- 全国的に合板が不足しており、昨年より1割増の生産量だが、在庫が少ないためフル操業が続いている。原木の入荷も順調であり、国有林材の供給調整の必要はない。
- 製紙用チップは、紙の値段が下がっていることに加えて、円高により外材チップ価格が低下しており、国産材チップに逆風が吹いている状況にある。素材生産は順調であり、供給調整の必要はない。